

## クリスマス・ツリー点火祭

青山キャンパス

### 御心に抱かれながら

相良 昌彦  
高等部宗教主任

「青山キャンパスの点火祭が今年変わるんですよ。」  
「え!?! どうなるんだらう?」さあ、どう変わるのでしょうか。そもそも、点火祭とはどのような集まりだったのでしょうか。

青山学院では待降節の始まりに最も近い金曜日の夕べ、相模原キャンパス、青山キャンパス共にクリスマスツリーの点火礼拝を守ります。通称、点火祭として多くの学生、卒業生たちに愛されてきました。陽が落ちて街や通りに灯りが灯され、図書館や教室の窓の明るさが目につく頃、両キャンパス共、クリスマスツリーの周囲に集められた一人ひとりが、初めて顔を合わす者も皆、主なる神のみ前に招かれる主の家族とされる時として。

点火礼拝はクリスマスを待ち望む季節の始まりを告げる青山学院の礼拝です。2000年前のクリスマスの夜、私たち一人ひとりへの主なる神からの愛は、幼子イエスの誕生として私たちの歴史の中に現れされました。「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛する(イザヤ書43章)。」まさにその言葉通り、主なる神は、この私たちのために主イエスを遣わされ、その主イエスは、十字架の丘へと歩まれます。いつしか、そこまで私たちを思われる主なる神への応答として、この季節は受難節と同じ色、悔い改めの心を表す紫をもって過ごすようになりました。

青山キャンパスにおいて、今年度私たちは、灯りが灯されるクリスマスツリーの前ではなく、あえてガウチャー礼拝堂入口に集められて礼拝を守ります。それは、学院の歩みの中心である礼拝の場に集められることを通して、日々の礼拝の中で生かされる共同体として点火礼拝を分かち合いたいという祈りの表れです。

点火礼拝の日、各部、各設置学校で守られる礼拝から、私たち幼稚園園児に始まり、初等部児童、中等部生徒、高等部生徒、女子短期大学の学生、大学の学生、大学院、専門職大学院の学生、その一人ひとりに仕える教職員は点火礼拝の場へと送り出されます。そこに来られる保護者、校友、訪れている人々を迎えながら私たちは、それまで歩んできた神の国の季節から新たな主の年の始まりを告げる季節、待降節へと移っていくことを確かめつつ、招き合い、迎えあうのです。

一同が主の御前にひとつとされるその時、私たちを慰め、励ましてくださる主イエスの福音の香りの中で、各設置学校の日々の礼拝の幸いが重ね合わされれば大きな喜びです。それぞれの教会で守られるクリスマス礼拝、イヴ礼拝で私たちが互いを迎え合うことができますように。主イエスを遣わされた父なる神の御心に抱かれながら。



## 幼稚園より

### アドヴェント礼拝

11/27 金 9:40~

12/4 金 9:40~

12/11 金 9:40~

### 保護者会クリスマス礼拝

12/7 月 10:00~

### クリスマス礼拝

12/16 水 9:40~

### 3学期始業礼拝

2016年1/8 金 9:40~

### 聖書を学ぶ会

2016年2/1 月 9:40~

### 卒園礼拝(年長児)

2016年3/7 月

### 終業礼拝

2016年3/14 月

### 卒園式

2016年3/15 火

(教諭 迫田 敏幸)

## 初等部より

### 感謝祭礼拝

11/24 火 初等部米山記念礼拝堂

### 保護者のためのクリスマス礼拝

12/4 金 初等部米山記念礼拝堂

### アドヴェント・コンサート

12/4 金 初等部米山記念礼拝堂

演奏 鶴 晶子 入場無料  
(青山学院大学オルガニスト)

### クリスマス讃美礼拝

12/19 土 15:00~17:30  
青山学院講堂

### 初等部チャペルコンサート

2016年2/25 木 15:40~16:30  
初等部米山記念礼拝堂

ハンドベルクワイア、聖歌隊、トランペット部隊

(宗教主任 小澤 淳一)

## 中等部より

### クリスマス礼拝

12/17 木 14:00~15:30  
青山学院講堂

礼拝はページェント形式で行われ、聖歌隊・聖書朗読などあらゆる奉仕が生徒によって進められます。

### 特別養護老人ホーム 救世軍恵泉ホーム訪問

2016年1/23 土 14:30~15:30  
ハンドベル部と華曲部の演奏

一般参加の生徒たちは、入居者の方々と言葉や語り合いの時をもちます。

### 保護者聖書の会

2016年1/27 水 10:50~12:00  
西大教室

(宗教主任 西田 恵一郎)



表紙写真 青山学院のクリスマス礼拝風景

シリーズ・私の教会 file 71 United Church of Christ in Japan, Rokkakubashi Church

## 日本キリスト教団六角橋教会

### 加山 真路

大学非常勤講師

東急東横線白楽駅から歩いて7~8分の住宅街の中に、六角橋教会は静かにたたずんでいます。地元のお店街は、戦後の焼け跡にできた開市から発展し、今も昭和の香りが色濃く残っています。近くに神奈川大学があるので若者の姿も多く、商店街が学生とコラボして開く催しがテレビでしばしば取り上げられます。今や60代・70代の店主たちの中には、かつて日曜学校に通っていた人も少なくありません。教会員も、週ればこの地に縁のある人が多いので、「地元」に根を深くおろした教会として発展してきたといえるかもしれません。

創立は1902年。福音同胞教会という小さな教派の宣教師が、隣町に「神奈川聖書講義所」として建てたのが始まりでした。その後、現在の地に移ってきたのですが、1960年代まではこじんまりした家庭的な教会でした。いつしか規模が大きくなりましたが、その雰囲気は今も大切にしています。一度関われば、誰もが自分のペースで息長くつながれる居場所。誰でも気軽に立ち寄り、初めての人も居心地よく感じられる止まり木—そんな教会でありたい。それが100年以上変わらぬ私たちの思いです。

10代から30代の若い世代も、よくやってきます。礼拝には、ふだんの目にも、茶飲み話に來たり、宿題や相談事を持って來たり…。ずっと來られなかった人が、何十年かぶりに子どもを連れて來て、親の立場に



なって改めて教会の存在や聖書の魅力を再発見することもよくあります。教会を支えるのは、ほかならぬ「み言葉」、聖書のメッセージです。それは礼拝や教会の中に止まるものではありません。むしろ、それぞれの暮らしに根を張ってこそ力を発揮するもの。日々直面する小さな決断のひとつひとつを導き、万華鏡のように変わる人間関係を受けとめ、ピンチのときに粘り強く乗り越ええる力として働くには底力。そうやって「暮らしに根ざす“み言葉”」こそ、多様な人間を教会に集め、とどめ、きめ細やかに編み上げていく原動力なのです。

「ゆりかごから墓場まで」とは、20世紀に生まれた高福祉社会のキャッチフレーズですが、教会はそのさき駆けずりません。一人の人が、いろんなペースで、気付いたら一生つながり続けていた—そんな居場所がここにはあると、私たちの教会の屋根に立つ十字架は、今も力強く伝えています。元ラガーマンの牧師、音楽を



P221-0802 神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-26-8  
TEL 045-432-0694 / FAX 045-432-0194

相模原キャンパス

### ツリーを一緒に囲んで

福嶋 裕子  
大学宗教主任

青山キャンパスのすくっと立った大きなモミの木に燦然と光り輝くクリスマス・ツリー。その立派さに比べると、相模原キャンパスのモミの木は小さくて可愛らしいものです。ほのかな光が、夕闇を渡る冬の広大なキャンパスにやわらかな印象を与えます。

アドヴェントに入る前の最後の金曜日の夕方、毎年、点火祭という名称で礼拝が、両キャンパスでもたれます。アドヴェントは、クリスマスまでに過ごす4週間のことです。礼拝堂のオルター・クロスは紫色になり、悔い改めの期間でもあります。点火祭自体は教会暦のなかに定められた儀式ではありません。しかし青山学院はモミの木を囲んで野外礼拝を守ります。

私事ですが、米国のボストンで、市街の中心地で同じようにモミの木に点火するとき厳かな気配になったことを覚えています。木のまわりにたくさんの人が集まり、見守り、喜びあうのです。相模原キャンパスの点火祭も、学内をそぞろ歩きしている人たちに、自然に礼拝に参加してほしいという願いもあって野外で行っています。

点火祭は悔い改めの季節に移行することを明確にする瞬間です。そこには、ほんの少しばかり祝祭の雰囲気もあります。悔い改めとは、自分に鞭打つことではありません。神の愛の完全な到来をはるかに見て、これまでの方向を転換することです。このままでは闇の方向へと流されている自



分をぐっと神様のほうに向けるのですから、力が必要ですよ。

過去の自分と決別する強さをもたなければなりません。それは自分のなかのパワーでは足りなくて、4週間、自分を振り返り、祈り続けるような持続力を要するものです。

悔い改めは、救いの喜びに満たされたために可能と体念、という意味では心から湧き出るワクワク感と一体になったものでもあります。

アドヴェントの時期の礼拝には、そうした特別な意味がこめられて守られています。相模原の点火祭では、礼拝堂にプロジェクションマッピングを当てて幻想的な雰囲気を作り出します。有志のハンドベル・クワイアによる演奏は、礼拝堂の前に繰り広げられる美しいオルゴールのようで、ほんのわずかの間、ものすごく大口をたたけばディズニーランドみたいです。

肌寒い季節ですが、チャンスがあれば、相模原のほんわかとしたクリスマスツリーと一緒に囲んでみませんか。

シリーズ 地の塩、世の光 file 22

## わたしは世の光である。わたしに従う者は、暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。

8:12 John ヨハネによる福音書 8章 12節

### 菅野 万利子

ピアニスト・ニューオーディアアカデミー講師  
日本福音キリスト連合 永福南キリスト教会員

### 闇から光にうつされて

台風一過、9月の日曜の朝、まぶしい光の映る水の中で洗礼を受けたのは、35歳の時です。幼い時から続いていたピアノは、いつのまにか人生航路の黒い船となって、その舵は自分だけが握り、成功へと導くのだと信じていました。大学卒業後、アメリカ留学中の順風の日々に多くの友人を通して伝えられる福音に、私は心を開くことはありませんでした。そんな私に逆風が襲ったのは、いよいよヨーロッパでキャリアを作り始めた頃、母が脳梗塞で倒れたため帰国を余儀なくされ、日常生活が一変したことでした。リハビリのサポート、家事、大学講師、演奏活動と慌ただしい毎日、母が脳出血でついに寝たきりとなってからは、毎日の病院通いで回復できない母を見る悲しき、時間との闘いで心も体も疲れていきました。私は何のため、誰のためにピアノを弾いているのか…。人生はまるで小筋のない音符の羅列、いつかは死という終止線が終わってしまう曲のようなものか、と逆風に襲われた闇の中の小船のようにでした。

その後、結婚して東京で主人の両親と同居し、二人の娘の子育てが始まりました。ピアノから離れて新しい大切な家族と過ごす中で自分を見つ直し、人生の本当の羅針盤を求めた時、友人の家庭集会で救い主イエスキリストとの出会いがありました。

「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」(ヨハネ8:12)  
心の闇は「罪」と聖書では言っています。自分で



京都に生まれる。相愛大学を経てアメリカインディアナ大学音楽学部卒業後、欧州にて研鑽を積む。「日本音楽コンクール」[NHKオーディション]入選。「文化放送音楽賞」「大阪文化祭賞」、「大阪市吹くやこの花賞」を受賞。相愛大学講師を経て、現在は東京を拠点に活動。TV「ライオン」,ラジオFEBCIに出演。心なむわーフや作曲家物語を交えたコンサートを中心に、日本全国および海外へピアノのせてキリストの愛と平和を伝えている。

CD「Rejoice～喜びのおとずれ～」[Bless You] [Born Again]をリリース。ニューオーディアアカデミー講師。三浦綾子読書会会員。

闇を掃うことはできず、光を受けて初めて明るさがわかります。今までは創造主なる神さまを知らず、自己中心な価値観に生き、愛や感謝の乏しい者でした。でも神さまはそんな私を憐れみ、ひとり子イエスキリストのいのちで代えて罪をゆるしてください、心の真ん中に光を入れてくださったのです。もう自分で舵を握りしめることはない、天への旅路はまかせなさい、と、父なる神さまが永遠に尽きない愛で私を抱込んでくださったと知ったとき、深い喜びと平安に満たされました。かつての耳慣れた音楽がまったく新しい歌として溢れ出す感動！そこからピアノは私にとって神さまへの感謝の証し、賛美と変えられました。その後、香港滞在中には一時ウマチという病気になるりましたが、つらさや痛みもまたそれを通して、神さまが恵みを増し加えられ、私にとって最善に導いてくださるのだということを体験しました。

「世の光」である福音を音楽にのせてお伝えしていくことは、私にとってこの上ない喜びです。どうか明日も、愛するみなさまの心に神さまの豊かな歌がありますように。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ3:16)



CHRISTIAN BOOKS & CDs シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

## 『世界で一番たいせつなあなたへ ~マザー・テレサからの贈り物』

文 片柳弘史 絵 RIE PHP研究所 2015年(1,200円+税)

ほしほし 林 謙二 中等部教諭



《マザー・テレサ》読者のみなさんの中でこの名前を知らない人は、おそらく一人もいないでしょう。では、マザーと会ったことのある人、直接話したことのある人は? おそらく一人もいないのではないのでしょうか。

1981年、1982年、1984年の3回、マザーは来日しました。しかし、もちろん、私も会ったことも話したこともありません。

著者の片柳弘史神父は、インド・コルカタのマザーの元で、ボランティアとして働いたことがあります。現在はイエズス会の神父として山口県のカトリック教会の主任司祭をされていますが、神父になったきっかけはボランティア活動をしていたから、[いつまで迷っているのですか。あなたは神父になりなさい]という、

私に進むべき正しい道を教え、疲れている私を癒やしてくれました。マザーは、初めて出会う誰に対しても、愛をもって温かく迎えてくれたそうです。だから、マザーと出会った人はみな、「自分こそ、世界で一番マザーから愛されている」と感じました。

この本によって、マザーとは会ったことのない私たちに今一番必要な言葉を、愛と共に降り注いでくれるように。

マザーの一言だったそうです。この本は、マザーが遺した言葉、その言葉について片柳神父が書いたエッセイ、そして「世界中に笑顔を広げるアーティスト」RIEさんの絵で構成されています。特に片柳神父のエッセイは、私たちの心に深く沁みとおるようになり、マザーの言葉を説いています。収録されている言葉は、悩んでいる私を手差し伸べ、苦しみを癒してくれるように。

### 編集後記

ウエスレーホールニュース第119号をお届けします。執筆者一人ひとりが心に描く「クリスマス」を色濃く感じられる記事をお寄せいただきました。主イエスキリストが私たちの為にお生まれになったことへの喜び、そして感謝の思いが満ち溢れる内容の今号となりました。教会暦では、いよいよ待降節に入ります。イエスキリストの降臨を覚える時として、学院に連なる一人ひとりが、主のたいなる愛に包まれて過ごしていければと思います。(幼稚園教諭 迫田 敏幸)

CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS  
 宗教センターだより

---

高等部より

クリスマス礼拝  
 12/18金 高等部PS講堂  
 説教 増田 琴(経営総同教会牧師)

クリスマス合同コンサート  
 12/19土 15:30~  
 高等部PS講堂  
 オルガン部、聖歌隊、ハンドベル部の演奏。

ホワイトキャンブ(高等部伝道キャンブ)  
 2015年1/4月-6水

(宗教主任 相良 昌彦)

---

女子短大より

クリスマス礼拝  
 12/9水 13:10~14:30  
 カウチャー記念礼拝堂  
 説教 関田 寛雄(日本キリスト教団巡回教師、青山学院大学名誉教授)

聖歌隊、ハンドベル、クワイア  
 クリスマス・チャリティ・チャレコンサート  
 12/18金 18:15~19:30  
 カウチャー記念礼拝堂  
 井上とも子(チェロ)、短大同窓会ハンドベルクワイア

(女子短大宗教活動センター)

# 喜ぶ人は 喜ばない人のように

「ソレントの信徒への手紙」第7章30~31節

説教

塩谷 直也  
 大学宗教主任



## 教育の到達点

この聖句は、パウロという人の言葉です。もしもパウロが今も生きていたなら、学校の教員として働く私に、何と言ったでしょう？

こう言ったかもしれませんね。「教える人は、教えない人のようにすべきです。子どもたちを愛したい人は、愛さなかった人のようにすべきです。」

イギリスの作家C.S.ルイスが「愛を与える」ということに関して、「与えるということの本当の目的、それは愛を受け取る側がもはや受け取る必要のない状態になることだ」と語っています。彼は続けます。

「私たちが子供を養うのは、子供がやがて自らを養うことができるようになるためである。私たちが子供に教えるのは、子供が私たちの教えをやがて必要としなくなるためである。従って、この与える愛には、つらい仕事が課せられる。」

愛するとは、とてもつらい仕事。なぜなら私たちは、私たち自身が、不必要となることを目指さねばならない。愛は、愛自体を放棄するために働かねばならないからです。「子供たちは、もはや私を必要としない」と私たちが言うるときが、私たち

の教育のゴールであるべきなのです。

## つらい仕事

これはかなり教師にとってはつらいことです。

程度の差はあれ、多くの教師が子供たちから慕われ、必要とされたいと願って働いています。子供たちの期待に応えて働けることは、とてもうれしいことだからです。

どんなに眠たい朝も、満員電車がこたえる日も、同僚とうまくいかなくても、子供たちのキラキラした瞳を思い出せば、学校に足が向きます。教師という仕事に自信を持って、自分を必要として、慕ってくれる子がいることで、教師は再び勇氣と力を取り戻します。私も何度経験したことでしょう。「もう辞めよう」と思った時に限って、学生たちや子供たちに励まされて立ち上がったことが！

そうです、教師は子供たちに必要とされるからこそ、やりがいもある。元氣も出る。

でも、でも、だからこそ忘れてはならない。いつの日か子供たちは巣立っていくことを、私のことを見捨てて旅立つことを、もはや私の支えを必要とせず、成長して視界から消えていくことを。

だから、教える人は、教えない人のように生きるのです。愛し、愛されて生きる人は、愛さず、愛されなかったように生きます。すべては過ぎ去るからです。一見寂しく見える。でもこの生き方こそが、実は子供を最も健やかに育てます。子供たちを、自分の弟子(家来?)として縛ることなく、神の子として、キリストのもとで自由にのびのびと育てることに繋がるのではないのでしょうか。

## 最良のものは前に

青山学院と同じキリスト教信仰の上にて建てられた東洋英和女学校(現在の東洋英和女学院)校長だったイザベラ・ブラックモア(1863~1942)が語った、卒業式の式辞が残されています。

「今から15年、20年、30年のちにあなたがたが今日のこの時代を思い返して、なおかつ、あの時分が一番楽しかった、一番幸福だった、と心底から思うようなことが！」

人生は進歩です。今日は昨日よりも良く、明日は今日よりもすぐれた生活へと、たえず

前進して行くのが真実の生き方です。若い時代は準備のときであり、その準備の種類によって次の中年時代、老年時代が作られていきます。最上のは過去にあるのではなく、将来にあります。旅路の最後まで希望と理想を持ち続けて進んで行く者であってください。」

ブラックモアは知っていました。子供たちが前を向き、もはや教師の教えも職員支えも必要とせず、自分の足で未来を切りひらいて旅立った時、教育は成功したのだと。逆にもしも子供たちが、いつまでも教職員を必要とし、ああ、あの頃が良かったと嘆くならば、それは教育の失敗なのです。

時代を越えてこの事実是不変わります。私たちの務めは子供たちを振り返らせることではない。いつまでも馴れ合いのような絆を保ち、思い出しに没入することでもない。最良のものは前であると信じ、学校から遠く先へと送りだすのが務めです。

ヨセフとマリアも同じ思いでイエスを育てたのではないのでしょうか。イエスが全世界を救う冒険へと迷いなく旅立てるよう、教えながら教えない人のように、最良のものは前であると信じ続けた、謙虚な、若い二人だったのではないのでしょうか。

## Special Issue : A Peaceful Christmas

# 特集 平和なクリスマス

待ちに待ったクリスマスがやってきます。私たちに平和をくださるために、神様はイエス様を浮かべてくださいました。私たちの心も、そして社会も、あまねく平和になりますように——。クリスマスに寄せる思いを、各部のみなさんに語っていただきました。

## 希望の光

希 望 の 光  
 追 迫 敏 幸  
 幼稚園教諭



待降節に入ると、幼稚園では週に1回、3週にわたりアドヴェント礼拝が持たれます。その中で子どもたちは、クリスマスまつわのお話を保育者から聴いたり、クリスマスの讃美歌を歌ったりします。また、お母様方はハンドベル演奏のご奉仕をしてくださいます。このように幼稚園全体でイエス様の御降臨を待ち望む大切な時として、大事にしているのです。

また子どもたちは保育の中で、おうちの方へのプレゼント作りをします。昨年度は、紙粘土を用いてそれぞれの家庭に飾れるリースを作る学年、同じ紙粘土を用いて好きなものを入られるお皿を作る学年がありました。また、光が当たると透けて見えるトランスパレント紙を使ってクリスマス柄の切り絵を作る学年もありました。子どもたちはおうちの方のことを思い、小さな手をコツコツと動かしながら作っていきます。こうしたプレゼント作りに加えて、アドヴェントカレンダーを作ったり、クリスマスの讃美歌を歌ったりして、もうすぐクリスマスが来ることを一人ひとりが楽しみに待ち、アドヴェントの期間を過ごしていきます。

そうして迎えるクリスマス礼拝当日。降誕劇を中心とした礼拝の中では、年長児は一人ひとりが大切な役を担い、演じていきます。年少児、年中児はその中で賛美をすることを通じて参加します。また、年長児のお母様方による賛美もその中で持たれます。その場に集う皆が心を一つにして、神様が私たちにイエス様をくださったことを喜び祝い、感謝する礼拝を守ります。

こうしたアドヴェントにおける様々な活動、そしてクリスマス礼拝を通して、子どもたちには、私たちにイエス様を与えてくださった神様の豊かな愛を感じてほしいと思います。幼き頃に感じた神様の愛、そこから生まれる温かく満たされた気持ちは、大人になっても色褪せることなく心の基盤となるものであると感じています。幼児期に経験した「クリスマス」が、時を経てもその人の心を照らす光となることを願っています。

## こころをこめて

あ かつ み ほ  
 初等部1年



しよとうぶにはいるまへのクリスマスは、きょうかいとようちえんでおいわいしていました。げきをしておいしかったです。ねんちよさんになると、やどやさん、ほし、マリアさま、ヨセフさまのやくができます。イエスさまのやくは、おままごとのにんぎょうです。わたしは、イエスさまにあいにくみちをおしえてくれる、おおきなほしのやくをしました。たくさんしゅうして、たのしくできました。

クリスマスは、イエスさまがお生まれになった、たいせつなひです。ことしのクリスマスも、こころをこめておいのりしたいです。

## わたしにとつてのクリスマス

向 野 真 生 子  
 初等部3年



毎年クリスマスが近づいてくると、町にはクリスマスツリーや、きれいなイルミネーションがたくさんござられて、わたしはとでうれしくなります。

青山学いんに入学する前のわたしは、クリスマスといえば、ケーキやプレゼントのことばかりを考えていました。でも、青山学いんでイエス様のお話を聞いたら、教会のクリスマス会でページェントをしたたりして、クリスマスの本当の意味—イエス様のおたん生日をおいわいする大切な日—を知りました。

クリスマスにはけん金をささげますが、3年ぐい前からわたしは毎年、自分が読んだりすきになった本をじ童ようごせつに送っています。そこでは、お父さんやお母さんといっしょにすむことができない子どもが生活しています。その子たちにも、クリスマスはしあわせな気持ちになつてほしいからです。

今年のクリスマスもだれかにプレゼントをして、イエス様のおたん生日をおいわいしたいと思います。

## 光に向かつて

浅 野 杏 奈  
 中等部3年



「さあ、ベツレヘムへ行こう。主が知らせてくださいましたその出来事を見ようではないか。」

私は2000年12月25日に神様から命を与えて頂いた。教会で聖歌隊をしていた母は、イヴ礼拝で大きなお腹を抱えながら神様を讃美したそう。そして礼拝後、クリスマスに私が生まれた。当時5才だった姉は神様から赤ちゃんとプレゼントを頂いたと大はしゃぎだったそう。

そんな私の家のクリスマスは、毎年感謝祭に続き、クリスマスカーで家中を飾り付ける事から始まる。アドヴェントクラッツに灯りをもすと、1年でいちばんキラキラとした時が始まる。準備が整った頃、まず聞こえてくるのは讃美歌が好きな父の歌声。それに続いて家族みんなで大合唱になるのがお決まりのパターンで、私はこんなひと時が大好きだ。

幼稚園の時、クリスマスが近くなると、ページェントに向けてオーデションが行われる。子どもだけのページェントだが、配役を決めて熱心に練習を積む。人前に出る事など性格的に無理な私だったので、何故かマリアに立候補し念願の役を頂いた。マリアにはソロで歌う難問もあり、毎日練習した。

今、私は役者になる為に稽古を続けている。神様はクリスマスが近づくと内気で踏み出せない5才の私を思い出させてくださる。あの時小さな私に与えてくださった試練を日々の頑張りでも乗り越えたいと思わせてくださる。「アドヴェントクラッツに灯りがつくと神の子イエス様のお誕生が近くなる」

今年もこの歌で始まる季節がやってくる。私の名前の由来はルカ2:36から頂いたと聞いた。救い主の誕生を待ち望む人々にアンナが話したように、私は「イエス様が私たちのもとにいらしてくださった意味を伝える人」にならなくてはいけない。「光の子として歩もう」と、心あたらに思う時でもある。

## 変えられたクリスマス

西 方 ミ ノ リ  
 高等部2年



私は中等部に入学したことがきっかけで母と妹が一年程前から行っていた教会に通い始め、そこでイエス様が私の救い主であると信じました。その時から、私にとってのクリスマスの意味はがらっと変わりました。

私は小さい時から、クリスマスはイエス・キリストというんだかすごいらしい人が生まれたことをお祝いする日なんだな、とは知っていました。家に、クリスマスはなんの日か、をテーマにした絵本が何冊も置いてあったからです。ミッションスクール出身の母は、どうしても私にクリスマスの意味を知ってほしかったので、ざりげなく伝えようとしていたそうです。

しかし、イエス様が生まれた日であること知ったところで、私にとってのクリスマスは、お正月やひなまつりなどと同じような行事の一つでしかありませんでした。イエス様の生まれた意味が分からなかったからです。救い主としてこの世にいられたらしい、とは知っていてもその意味は分かりませんでした。幼かったせいもありですが、そのまほもなければ今でもただ、そんな偉大な人が来てめでたいなあ、と他人事のままだったでしょう。

転機は中学1年生の時。私は教会で、イエス様は私のどうしようもない悪い心、つまり罪をかわりに背負って死んでくださった、そのことよって私の罪は赦され、天国に入る約束が与えられたと知り、それを信じました。そして迎えたクリスマス。私は初めて「私のために」救い主イエス様が来てくださったのだと知りました。イエス様はただ来てくださったのではなく、私が赦され、救われるために、十字架につかために来てくださったのだと分かりました。これを本当に心の底から感じ、感動し、感謝するようになったのはもっと最近になってからですが、今ではクリスマスはまさに「私のために与えられたもの」であると確信しています。

みなさんにとってのクリスマスが「どこかの誰かのため」ではなく「自分のために与えられたもの」になりますように。

## 最高のプレゼント

高 柳 はるか  
 女子短期大学 子ども学科1年



クリスマスという、クリスマスケーキや、イルミネーション、プレゼントなどが連想されると思いますが、クリスマスの本当の意味を考えたことがあるでしょうか。

私の家族は皆クリスチャンで、私も小さいころから教会に行っていました。クリスマスが「イエス様が生まれた日」だということは知っていましたが、クリスマスはプレゼントや、ケーキや、料理のほうが楽しかったです。しかし、年齢が上がるにつれて、クリスマスの日が自分にとって、とても大切な日だということが分かってきました。

クリスマスの日にイエス様は神の子であるにもかかわらず、わざわざ人間となってお生まれになりました。それは、私たちの罪を赦し、私たちに救いを与えるためでした。罪ある私たちが本当は受けるべき罰を、イエス様ご自身が十字架にかかることにより、私たちの身代わりとなって受けてくださったのです。なぜ、そんなことをなさったのでしょうか。それは、神様が私たちに何をかしたからとか、才能があるからとかではなく、ただただ無条件に私たち一人ひとりのことを愛してくださっているからです。イエス様は神様からの最高のプレゼントなのです。

私はそのことを知り、とても嬉しいと思いました。そして、この最高のプレゼントを感謝と喜びをもって受け取っていきたくと思います。また、私の周りにいる大切な友だちや先生方、身近な人々にこの喜びを伝えていけたらと思っています。

私は今までずっと公立の学校に通っていたので、学校行事でクリスマスをお祝したことがありません。女子短期大学に入学して、いつも一緒に学んでいる仲間たちと一緒にクリスマスを祝い、喜びを分かち合えることがとても嬉しい、楽しみです。

## 特別なクリスマスに：

鈴木 志保  
 大学院 会計プロフェッション研究科1年



私のクリスマスは、ボランティア先の緩和ケア病棟のクリスマス会と家族との食事会で1年を無事に過ごせたことに感謝しながら厳かに過ごします。今年

は、人生での転機期ですので、特別なクリスマスとなりそうです。

私は、大学までミッション系の学校で穏やかに過ごしてきました。そして、新卒で国際線の客室乗務員としてエアラインに就職します。様々な人との出会いや変化のある仕事は、毎日が新鮮で、人が喜ぶ顔を見ることが好きな私にとって天職だったのでしょうか、楽しくて瞬く間に10年が過ぎて行きました。乗務員として世界を飛び回っていると、楽しいことも多い反面、地上勤務ではあり得ないような辛いことも遭遇することがあります。そして、私にとっては最も大きな試練が訪れるのです。

私は、9・11で目の前で大切な人を亡くしました。あの衝撃と悲しみは一生活れることが出来ないという

ことを知りました。「悲しみ」を抱えながらも勤務に耐えられたのは、私の心の中に小さな頃から「聖書」の教えが培われていたからだと思います。そして、大きな「悲しみ」が深い「哀しみ」に変わっても押し潰されずに頑張れたのは、両親やかけがえない友人達に支えられていたからです。飛行機と高層ビルへの恐怖と闘いながら、必死に仕事を続け、心も身体も限界に達していたあるクリスマスの日、お世話になったシスターから「人は生きているのではなく、人との繋がりの中に生かされているのだ」ということを教わりました。それからは、一期一会を大切に、小さなことにも感謝をしながら、前向きに人生を過ごしています。

今年、新たなお導きで会計プロフェッション研究科に入学し、素晴らしい先生方と友人達に支えられながら頑張っています。今年のクリスマスは、学院の礼拝でこのような大きなお恵みを頂いたことへの感謝の祈りを捧げたいと思っています。